

令和2年度 みらいホーム 事業報告書

1 総括

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、外出等の制限や日中活動先の活動内容の変更など、入居者の生活に大きな影響があった1年であった。感染防止対策の徹底により感染者は出なかったが、予定が定まらないことやこれまでとは異なる雰囲気を感じ取り、気持ちが不安定となる入居者が多かった。しかし、コロナ禍を丁寧に説明することで大きな混乱はなく日常の生活を送ることができた。また、感染防止のため、4月から一時的に自宅へ帰宅した入居者が4名いたが、日中活動先の開所や会社の動きにあわせ、7月には全員グループホームでの生活が再開された。令和3年度においても感染防止対策を徹底するとともに入居者の不安感を取り除き、安心して暮らしていける環境設定を行いたい。

2 事業概要

- 1) 施設名 みらいホーム
(ユニット：アンダンテ、クローバー、藤ハウス、花の樹、カトレア)
- 2) 事業種別 共同生活援助（介護サービス包括型事業所）
- 3) 所在地 東京都小平市大沼町7-5-33
- 4) 経営主体 社会福祉法人未来
- 5) 利用定員 31名（令和3年3月31日現在）
(アンダンテ4名、クローバー7名、藤ハウス6名、花の樹7名、カトレア7名)

- 6) 利用現員 31名（令和3年3月31日現在）

ユニット	定員	現員
アンダンテ	4名	4名（内男性4名）
クローバー	7名	7名（内男性4名、女性3名）
藤ハウス	6名	6名（内男性6名）
花の樹	7名	7名（内男性5名、女性2名）
カトレア	7名	7名（内女性7名）

- 7) 法人認可年月日 平成14年12月13日

- 8) 事業開始年月日 平成15年1月1日

- 9) 職員 (令和3年3月31日)

管理者 1名

サービス管理責任者 2名（兼務：常勤換算2.0）

世話人 13名（常勤換算10.0）

生活支援員 27名（常勤換算14.8）

3 基本理念

一人ひとりの自己実現の支援
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
安心と希望のもてる生活

4 基本方針

- 1) 安定した日常生活の保障
- 2) 入居者一人ひとりの主体的な生活の支援
- 3) 入居者の相談支援
- 4) 安心できる将来への支援

5 実施事業（活動内容）

- 1) 居室の提供

- 2) 食事の提供
- 3) 洗濯、掃除等の生活支援
- 4) 健康管理
- 5) 日中活動先（福祉サービス及び職場等）、関係機関との連絡、調整
- 6) 入浴等生活行為の支援
- 7) その他日常生活に必要な支援

6 日 課

5時00分～	7時30分	起床
7時30分～	9時30分	通所事業所、会社へ出勤
15時40分～	17時00分	帰宅
16時00分～	20時30分	入浴
18時15分～	19時15分	夕食
20時00分～	22時00分	就寝

7 重点課題・目標に対する成果と課題

1) 活動

(1) 入居者が充実した生活を送れるよう支援する。

- ①入居者一人ひとりが生活の主体者であるということを基本に、個々に合わせた支援の充実を図る。
- ②安心できる環境づくりを行う（空間・関係性・関わり方・健康管理 など）

【成果と課題】

新型コロナウイルス感染防止の為の活動自粛、これまでと違う雰囲気、また、予定等が定まらないなどにストレスや不安を感じる入居者もおり、全体的に落ち着かない場面が多くみられた。しかし、一人ひとりに新型コロナウイルス感染症流行の状況や感染防止の必要性を丁寧に説明することで多くの入居者が少しずつ理解し、生活の変化を受け入れていたように感じる。

(2) 高齢化に向け将来に備えたホームの機能を拡大する

- ①ホームが生活全般のコーディネートをしている7名の支援内容を検証したうえ、必要に応じて支援の見直しや拡充を行う。
- ②自宅との二重生活の入居者の内、希望者には、随時面談を実施し、現在必要な支援内容の確認や将来希望する生活について聴取し、これに基づいた支援を行う。

【成果と課題】

すでに、生活全般のコーディネートを行っている7名については、生活上の大きな変化はなく、これまで通りの支援を継続した（通院同行、預り金管理、移動支援利用時の予約、行政等手続きの補助等）。この他の全入居者に対しては、高齢化に備えた支援計画作成のため、家族が行っている支援内容とグループホームが行っている支援内容を一覧表にまとめる作業に着手したが全入居者が途中の段階で完成には至らなかった。

(3) 個別支援計画の作成・評価の充実を図る

家族や関係機関と入居者の状況を共有し、支援計画を丁寧に作成する。また、職員への周知を徹底し、計画に基づいた支援と半年ごとの評価を実施する。

【成果と課題】

昨年度まで、個別支援計画が形骸化しており、実際の支援との関連性も弱かった。この反省を踏まえ、2年度の計画作成時に、より具体的な支援内容を盛り込むよう見直しを行い計画と支援の関連付けについては改善がみられた。しかし、生活全般また長期的な視点による目標が不明確であるなど計画自体にまだ課題がみられたほか、日常における支援経過の記録が不十分であったことから評価が十分に行えなかった。

(4) 職員間の連携・情報共有を図る

入居者予定表・ケース記録・業務日誌・引継ぎノートへの記入の精度を向上するとともに、確認を徹底し職員間の共有を図る。

【成果と課題】

担当職員からの口頭による引継ぎの他、ケース記録や引継ぎノートの活用により、健康状態や予定の確認等を行った。健康面、心情面等の特筆すべき事項は、概ね記載され共有が図れたが、日常における入居者の生活の様子や職員の支援内容等については記載されていないことが多く支援経過の共有が不十分であった。

(5) グループホームなどの住まいの拡充

① さかえホーム開設準備（令和3年4月開設予定）

(ア) 入居者を決定し、個別面談の実施等により新生活の移行の準備を進める。

(イ) 東京都の補助金申請を行う。

(ウ) 建設業者の選定を行う。

(エ) 事業計画及び予算計画の策定を行う。

【成果と課題】

東京都通所施設等整備費補助金68,482,000円を受け、令和3年3月に自己所有の建物が完成した。計画通りに準備を進め、定員14名全員の入居が決定し、令和3年4月にさかえホーム及びゆずの樹はうすを開設することができた。

- ・ さかえホーム（共同生活援助※日中サービス支援型） 定員7名の2ユニット
- ・ ゆずの樹はうす（短期入所※共同生活援助併設型） 定員1名

② 新規グループホーム開設に向けた検討を行う（令和7年度以降開設見込）

入居希望者から、ホームでの生活の意向を聴取するとともに、生活イメージの共有を図る。

【成果と課題】

令和2年1月に、利用者家族より令和7年度以降の開設に向けた相談があり、法人の中長期計画に盛り込むこととなった。

2) 人材育成

(1) 管理職候補者 - 対象1名

① 全職員の業務スキルを把握し、個々に応じた助言、指導を行う力を向上させる。

② 全職員に支援方針を明確に周知し、方針に基づいた支援の実行を徹底させる。

③ 課題を発見し、具体的な改善策を提案する力を身につける。

④ 多角的な視点による、適切な判断基準を身につける。

⑤ 施設経営に関する業務の知識を習得する。（経理・労務管理・国保連及び都加算請求等の実務、経営会議及び理事会等の傍聴）

【成果と課題】

日常業務における利用者支援に関する情報共有については丁寧に行えた。課題はあるものの概ね施設長に必要なスキルに到達しており、令和3年4月に開設の新規グループホームの施設長に就任した。

(2) ユニットの主たる職員 - 対象4名

① 入居者支援全般における管理を行う。

② 家族、通所先等それぞれの立場にたった視点を持ち連携を図る。

③ ケース記録等の指導や管理を徹底する。

④ 管理者からの指示の伝達や管理者への報告などを的確に行う力を身につける。

⑤ 職員とコミュニケーションを図り勤務調整等を不備なく行う。

【成果と課題】

利用者の日常生活に関しては職員と共有を図り、きめ細やかな支援を行うとともに、家族や関係機関等からの相談に対しても丁寧に対応することが出来た。しかし、個別支援計画に基づいた支援、評価、見直しなどの基本的業務が身につけておらず、これにより、ケース記録の記載やチェック、他の職員への指導等が不十分となった。

(3) 世話人・生活支援員

① 職員の情報共有を徹底し、一貫性のある支援を行う。

- ・ケース記録を不備なく正確に記録できるようにする。
- ・ケース記録の確認を習慣化し、申し送り事項を遵守する。
- ・個別支援計画に基づき、利用者一人ひとりに丁寧な支援を行う。

【成果と課題】

日常生活については丁寧な支援が行えているものの管理側の指導不足もあり、ケース記録の記載内容が不十分となり、支援経過の共有による支援方針の統一が十分に図れなかった。また、事業の性質上、全員参加のミーティングや日常の継続した指導ができにくいこともあり、支援やケース記録の技術の標準化についても不十分であった。

② 事故防止を徹底する

- ・服薬管理方法等のマニュアルを遵守し、誤薬等の事故を防止する。
- ・無断外出行為のある利用者に対し、見守り及び建物内の施錠を徹底する。
- ・整理整頓へ環境への配慮など転倒等によるけがの防止に努める。

【成果と課題】

6月に漢方薬の服用時間変更の申し送りに不備があり、服薬時間の誤りが1件あったが、健康状態に大きな影響はなかった。誤薬事故の防止策として、薬の管理方法を見直し、薬を入れる小袋一つひとつに曜日と時間を記載することとし、7月以降は誤薬を防止できた。また、この他、無断外出、転倒等の事故は防止することができた。

3) 経営管理

(1) 自立支援給付費の加算等について情報を収集し、対象となりうる加算があればその取得に努める。

【成果と課題】

対象となる加算はなかった。

(2) 給付費と共に都補助金の増額に向けて利用実績の増加に努める。

【成果と課題】

新型コロナウイルス感染症防止の為に利用自粛及び1名の長期入院があったものの、カトレアの利用実績の増加に伴い、利用率は前年度とほぼ同率となった。しかし、区分の高い入居者の利用率が増加したことにより、都加算との差引により合計332万円の増額となった。

《利用率》

R2 年度実績	R 元年度実績	前年度との差
73.6%	73.7%	△0.1%

《給付費等収入》

	R2 年度実績	R 元年度実績	前年度との差
訓練給付費収入	約7,638万円	約7,274万円	+364万円
都加算の収入	約2,482万円	約2,514万円	△32万円
総額	約10,120万円	約9,788万円	+332万円

(3) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行する。

【成果と課題】

月次試算分析により月々の経営状態を把握した。緊急的な支出も発生せず、計画的な予算執行が行えた。

(4) 将来の建物修繕等に備え、家賃収入等から資金を計画的に積立てる。

【成果と課題】

法人所有の建物である、クローバーとカトレアについては、将来の建て替えや大規模修繕用に備え、以下の通り年度末に積立を実施した。

《クローバー》

	R 元年度累計積立額	R2 年度の積立額	合計
建て替え用資金	1,800,000 円	900,000 円	2,700,000 円
大規模修繕用資金	458,000 円	230,000 円	688,000 円

《カトレア》

	R 元年度累計積立額	R2 年度の積立額	合計
建て替え用資金	900,000 円	900,000 円	1,800,000 円
大規模修繕用資金	240,000 円	240,000 円	480,000 円

8、その他の成果と課題

1) 市内グループホームとの連携・強化（グループホーム連絡会の実施）

新型コロナウイルス感染症防止のため、隔月に1回開催する予定であったグループホーム連絡会は1度も実施しなかった。この他、日常で連絡を取り合う機会もほとんどない1年となった。

2) バックアップ施設による支援

バックアップ施設の職員巡回による、近隣の温泉施設の利用及び外食を行っていたアンダント、藤ハウスについては新型コロナウイルス感染症拡大の影響により外出を自粛した。入居者及び家族と相談のうえ、藤ハウスについては、バックアップ施設の夢風船の入浴設備を借りることとなった。この他、クローバーの一般就労している入居者1名がワークセンター夢の樹の行事に参加した。この入居者は、日頃、仲間との外出機会が少ないため、行事の参加が楽しみの一つとなっており、毎年5回程度参加していたが、2年度は活動自粛の影響により外出が減ったため参加は1回となった。

＜バックアップ施設＞

- ・ワークセンター夢の樹
- ・夢の樹みどり
- ・小平第二みどり作業所
- ・夢風船

3) 夜間等緊急時の対応

緊急時は、管理者と主たる職員のうち2名の計3名が対応することとなっているが、夜間に緊急体制を要する事案は発生しなかった。3名とも市内在住でないこともあり、緊急時のより迅速な対応が課題であるが、他の職員による対応も含めた緊急時の支援体制の整備には至らなかった。

4) 職員及び入居者にインフルエンザ予防接種を実施し、インフルエンザの罹患者はいなかった。

9、事故報告

- 1) 6月 本来午前9時30分頃通所先で服用する漢方薬を誤って午前8時頃にグループホームで服用したが、健康状態に問題なし。

10、実施状況

1) サービス実施日数	期間	自：令和2年4月1日	至：令和3年3月31日
(1) アンダンテ		365日	
(2) クローバー		365日	
(3) 藤ハウス		365日	
(4) 花の樹		365日	

11、利用状況

1) 入居者延人員	8,330人
2) 一日平均利用人員	25.1人

ユニット	入居者延人員	一日平均利用人員
アンダンテ	1,005人	2.8人
クローバー	2,143人	5.9人
藤ハウス	1,653人	4.5人
花の樹	1,764人	4.8人
カトレア	1,765人	4.8人
合計	8,330人	22.8人

12、入居者状況（令和3年3月31日現在）

1) 年齢

- ・ 20歳以上30歳未満 1名
- ・ 30歳以上40歳未満 12名
- ・ 40歳以上50歳未満 9名
- ・ 50歳以上 3名

ユニット	20代	30代	40代	50代
アンダンテ		1名	2名	1名
クローバー		2名		5名
藤ハウス		2名	3名	1名
花の樹		5名	1名	1名
カトレア	1名	2名	3名	1名
合計	1名	12名	9名	9名

2) 障害の状況

(1) 障害の状況

愛の手帳2度	13名	(内身障手帳所持 2名、精神保健手帳所持 1名)
愛の手帳3度	7名	(内身障手帳所持 1名)
愛の手帳4度	6名	(内精神保健手帳所持 1名)
身体障害者手帳1級	1名	(内愛の手帳所持 1名)
身体障害者手帳2級	2名	(内愛の手帳所持 2名)
精神保健手帳2級	3名	(内愛の手帳所持 2名)

(2) 障害支援区分

- ・ 区分2 2名
- ・ 区分3 7名
- ・ 区分4 10名
- ・ 区分5 10名

・ 区分6 2名

ユニット	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
アンダンテ	1名	3名			
クローバー		1名	4名	2名	
藤ハウス		2名	2名	2名	
花の樹		1名	2名	3名	1名
カトレア	1名		2名	3名	1名
合計	2名	7名	10名	10名	2名

3) 居住状況

管内居住 24名 管外居住 7名

4) 性別

男性 19名 女性 12名

1.3、環境の整備

ホーム内の美化及び整理整頓を行い、衛生保持、また転倒の防止に務めた。

1.4、健康管理

新型コロナウイルス感染症等の防止対策として、全入居者に対し、グループホームを出る前と帰ホーム後に検温を実施した。食事作りについては、健康管理のための栄養バランスを意識するとともに日頃運動量が少ないことから肥満防止について特に注意を払った。一人は体重の改善が図られ、その他の入居者は肥満傾向は進んでいない。また、健康状態把握の一つとして、毎月1回の体重測定を実施した。このほか、風邪症状、皮膚疾患、歯科・眼科検診等、必要に応じて通院同行を行った。年間を通して、疾病等により、大きく体調を崩す入居者はなく、健康状態を維持することが出来た。

	定期通院同行	風邪症状他必要に応じて同行	
アンダンテ	0名	1名	(計1名)
クローバー	2名	2名	(計2名)
藤ハウス	1名	3名	(計3名)
花の樹	1名	3名	(計3名)
カトレア	1名	1名	(計1名) ※実数

1.5、防災

災害時避難訓練を年2回実施した。3月に計画していた防災訓練についてはコロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。